

C. 都市に暮らす人々を取り巻く環境の変化

動向 市民のライフスタイルの多様化、ウィズコロナ・アフターコロナの社会形成への模索

・労働時間や働き方など**市民のライフスタイルニーズが多様化**しており、コロナ禍を経てその傾向がより顕著となって表れている。「居住したいまち」として評価されるためには、こうした多様なニーズへの対応が求められる。

【近年における国民生活の変化】

《1日における「仕事」時間の変化（勤め人）》

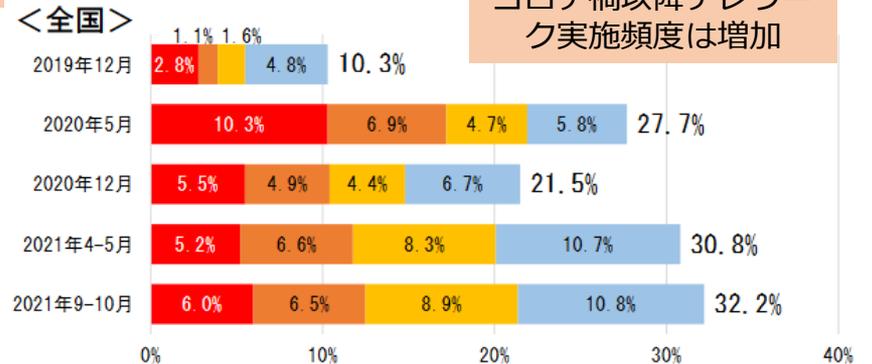
近年、「仕事」にかかる時間は減少



出典：「国民生活時間調査（NHK）」

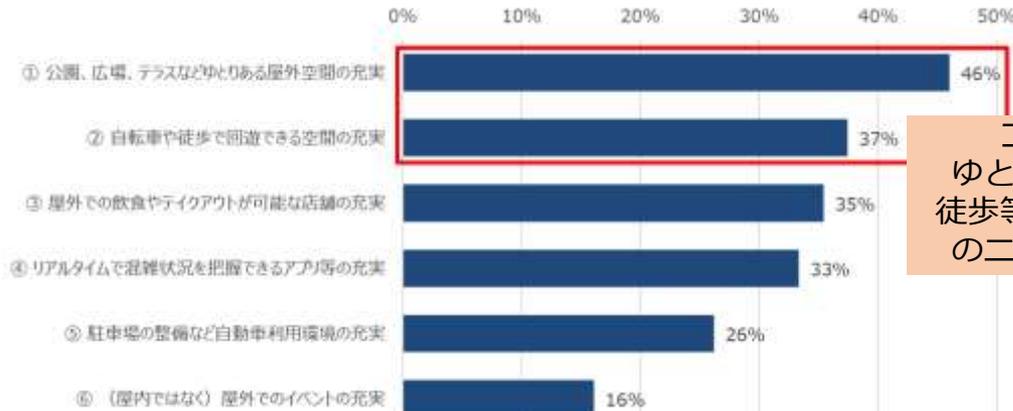
《テレワーク実施頻度の変化（就業者）》

コロナ禍以降テレワーク実施頻度は増加



出典：「第4回新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」（令和3年11月1日 内閣府）

【都市空間に対する意識（充実してほしい空間）令和2年8月】



コロナ禍を経て、ゆとりある屋外空間や、徒歩等で回遊できる空間へのニーズが高まっている

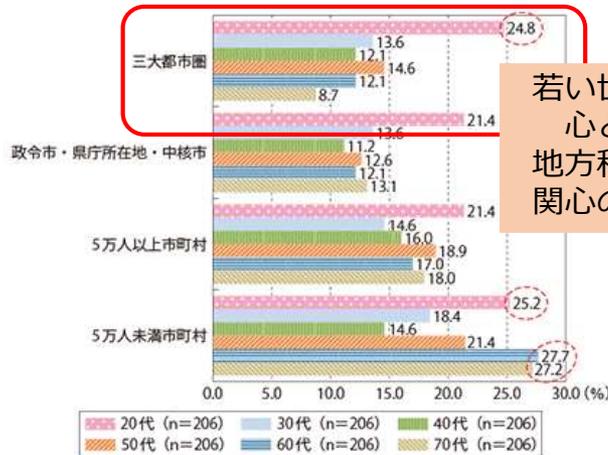
調査対象：特定警戒都道府県（札幌市、東京都市圏（茨城南部、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）の市区町村）、金沢市、岐阜市、名古屋市、大阪市、豊中市、福岡市）、その他（盛岡市、仙台市、静岡市、四日市市、奈良市、広島市、松山市）
 調査対象：WEBアンケート調査会社に登録しているモニター12,872サンプル
 調査時期：令和2年8月3～25日
 調査方法：WEBアンケート調査会社を通じたWEBアンケート調査

出典：全国の都市における生活・行動の変化—新型コロナ生活行動調査概要—(国土交通省)

動向 都市部の人口流出

・地方移住への関心が高まっていたなか、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う暮らし方・働き方の変化を契機に、東京圏一極集中状況にも変化が生まれるなど都市部においても人口減少の流れが始まっている。大阪市においてもゆとりある空間の創出や暮らしやすいまちづくりがもとめられる。

【地方移住推進への希望（全国）】

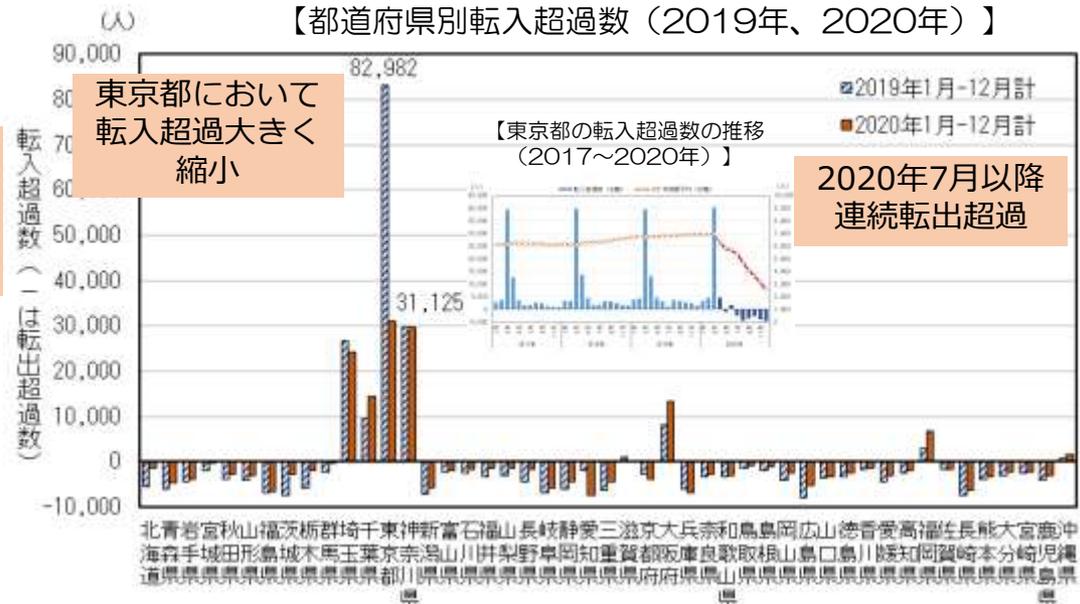


若い世代を中心とした地方移住への関心の高まり

資料) 国土交通省「国民意識調査」

出典：平成29年度 国土交通白書

【都道府県別転入超過数（2019年、2020年）】

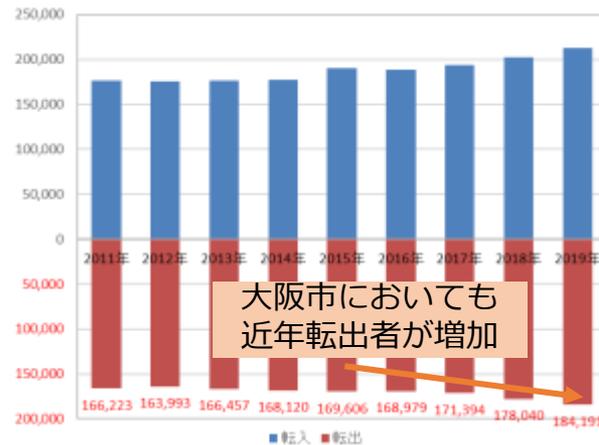


東京都において転入超過大きく縮小

【東京都の転入超過数の推移（2017~2020年）】

2020年7月以降連続転出超過

【大阪市の転入者数・転出者数の推移】



大阪市においても近年転出者が増加

出典：総務省統計局HP「新型コロナウイルス感染症の流行と東京都の国内移動者数の状況一住民基本台帳人口移動報告2020年の結果から一」

出典：大阪市HP「平成30年中の人口の動き」

動向 大阪市への来訪者の増加

・近年、大阪市への来訪者数は、国内からの旅行者・外国人旅行者とも増加している。2020年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で激減したが、今後も多くの来訪者を受け入れる環境整備が求められる。

【大阪市への居住都道府県別延べ宿泊者数（日本人）の推移】



出典：地域経済分析システムRESAS

【大阪府への外国人旅行者数の推移】



出典：大阪府「2020年版なにわの経済データ」